



☆ AWC事務局便り 7月号 ☆

7月に入りましたが、コロナウィルス感染がまた増加傾向で、まだ気の許せない日々が続いております。みなさまはお変わりございませんか？

AWC事務局も、今年予定されていたイベントのほとんどが中止となり、今まで通りの活動ができない状況ですが、タイや国内の支援事業は続けております。ご安心下さい。

コロナ禍のチェンライと新しい命

タイでも多くのコロナウィルスの感染者が出ました。しかし大きな広がりはないようで、最北県のチェンライでは9人の感染者で全員回復して退院しているそうです。

無国籍の移民や、経済的に苦しい人たちも多くいるので山岳民族の村で流行しなかったことは幸いでした。タイは日本のような自粛要請ではなく強制力を伴った行動制限がありました。学校の休校は今も続いています。

そんな中、私たちも以前スタディツアーで滞在したことがある、アカ族が住むアジャ村で双子が誕生しました。アカ族の風習では、かつては双子の誕生は縁起が悪く、育てることを許されなかったり、両親も村を追われたりすることがあったようですが、この両親は子どもの誕生をとっても喜んでおり、コミュニティにも受け入れられています。

しかし、経済的には大変です。父親のAさんは日雇い労働で家族を支えています。コロナ禍で収入が激減してしまいました。通常は1日働くと手取りで300バーツ程度の収入があるそうですが（日当から車代が引かれます）コロナの影響でタイの経済状況が急激に悪化し、その仕事もなくなってしまいました。母親はもともと仕事をしておらず、思わぬ収入激減と双子の誕生で、嬉しさと一緒に大きな不安も抱えていました。

とりあえずミルクが必要ということで、おたがいさまプロジェクトで支援しました。



きらりんきっずにおもちゃが届きました

東日本大震災の復興支援として協力を続けている、陸前高田市のおやこの広場「きらりんきっず」は、今年1月に新しい施設が完成し、仮設の建物から引っ越しをしました。新しい施設は木材がふんだんに使われ、明るい日の光が差すとても気持ちの良いところです。津波で施設が流された直後から、避難所の高田第一中学校の図書館を借り受けて、被災した親子の支援を行い、その後も子育てを孤立させないように様々な努力を続けてこられたスタッフの方々は、とても喜んでいらっしゃいます。

施設はできましたが、子どもたちが遊ぶおもちゃが足りないという話を聞き、「日本おもちゃ図書館財団」に連絡をしておもちゃの支援をしていただきました。大好きなあんぱんまんやパトカーなど、たくさんのおもちゃに子ども達は大喜びだそうです。ご協力いただきました日本おもちゃ図書館財団様に、心からの感謝を申し上げます。

